

令和7年度 府中市立府中第七小学校 学校経営報告

校長 田村 香代子

府中市立府中第七小学校 教育目標

- 「つよく」 丈夫な体と強い意志をもち、責任をもって最後までやり遂げる力。
健やかな体の育成 ～しんの強い子～ 【行動力】
- 「たたく」 基礎学力を身に付け、真理と正義を愛し、主体的に考え、判断し、すすんで創造的に行動する力。
確かな学力の向上 ～学び続ける子～ 【問題解決力】
- 「あたたかく」 自他の人格を尊重し、豊かな心情をもって共に生きることのできる力。
豊かな心の醸成 ～思いやりのある子～ 【人間関係形成力】

目指す学校像 「みんなの笑顔が自慢！明日も来たくなる学校」

- (1) 「わかる」「できる」「たのしい」授業 (2) 安全で安心できる学校 (3) 体験活動の充実
(4) 地域や保護者と共に創る学校 (5) 学校の取組が見える学校
(6) 多様な個性を認め合う学校 (7) 府中第七中学校との小中連携・一貫教育の推進

1 はじめに

今年度は学力向上を第一目標とし、教職員の授業力向上、基礎学力の定着のための常時活動の充実を図ってきました。研究推進部が中心となり教員研修や校内研究に取り組みました。また、学力向上委員会を立ち上げ、教員たちが真剣に話し合い「何ができるか」「何をすべきか」考え実行してきた1年間です。道半ばですが、今後も取り組みを続け、学力向上を目指してまいります。

2 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

① 4つの視点「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」を取り

入れた授業により、主体的に学ぶ児童を育成する。

- ・「発見すること」：児童が自ら課題を見つけられるような授業の展開を工夫する。
- ・「対話すること」：対話する必要性を児童が感じられる授業づくりを行う。
- ・「決定すること」：課題解決に向けて学習方法や表現方法を児童が選べるようにする。
- ・「表現すること」：国語科「話すこと・聞くこと」の校内研究を通して、豊かな表現ができる児童を育成するための単元開発を行う。

〈成果〉・校内研究を通して、授業改善が行われてきた。保護者アンケートでは項目「学校は『分かる・できる』授業に努めている」で昨年度よりも2ポイント高い82%以上の肯定的な評価をいただいた。

・年間4名の講師による授業に役立つ研修会を実施し、教員の指導技術の向上が見られた。

〈課題〉・「決定すること」に関して、表現方法を選ばせる授業にはなっているが、学習方法まで選ばせられる授業には多くの教員がまだなっていない。

②互いの違いを認め、友達を信頼し、助け合ったり高め合ったりすることができるようにする。

- ・児童一人一人の良さを認め、伸ばす。(全教育活動を通して)
- ・縦割り班の活動を通して、リーダーシップ及びフォロワーシップを養う。
- ・年間を通して縦割り班で「あいさつ運動」に取り組む。
- ・言葉の使い方や態度について指導し、学級や学年、異学年の仲間と仲良く生活できるようにする。
- ・特別活動の行事などを通して、役割をやり遂げ、活動を楽しみ、人間関係形成力や自己肯定感を高めたり、自己実現を図ろうとする態度を育成したりする。
- ・2、3学期に児童会で決めた取組を実施する。
- ・学級や学年、縦割り班、クラブなど、集団での課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図る。
- ・「未来へつなぐ府中 2020 レガシー」を推進し、オリパラ教育の継承、ふるさと学習、地域学習の活性化を図り、府中を愛する心を醸成し、豊かな人間性を育む。
- ・全校で「手話」に取り組んだり、講師を招いて「デフスポーツ」に挑戦したりする。

〈成果〉・保護者アンケート「学校は、一人一人の子供の良さを認め、励ますことを大切にしている」では昨年度より4ポイント高い84%の肯定的評価をいただいた。

- ・国語科「話すこと・聞くこと」の校内研究を充実させてきたため、解決するための話し合いを活発に行うことができるようになってきた。
- ・代表員会でいじめに関する取り組み（「いじめをなくす動画の作成・朝会での発表」「七小仲良し四箇条の制定」）を提案し、全校に発信した。児童が自分事として考えられるように教職員が指導する力が付いてきた。

〈課題〉・児童自ら課題を見出し、解決する力を付けるために、特別活動の研究を行っていく。

③多様な運動経験を通して体力の向上を図る。

- ・1学期「体力テスト週間」2学期「マラソン週間」3学期「なわとび週間」。全学年「ふちゅうロープチャレンジ」(長縄8の字連続とび)に参加する。
- ・中休み、昼休みと誘い合って自由に遊ぶ時間と、大勢での外遊びができるように、学級や学年で係をつくり、計画的に遊ぶ時間をもつ。

〈成果〉保護者アンケート「学校は、健康を保つための保健指導や体力向上の活動(マラソン、なわとび)の指導に取り組んでいる)では、86%の肯定的評価をいただいた。

〈課題〉熱中症予防のために校庭を使えない時期の体力向上について、児童の体育委員会で話し合いを行うなど、児童が主体的に考え行動できるようにしていく。

④道徳教育の充実を図り、温かで豊かな心を育てる。

- ・人権が守られているキーワード「安心して、自信をもって、自由に選べる」ことを理解し、実践する。(「人権作文コンクール」に参加)

- ・弁護士会の「いじめ未然防止」の授業を通して「いじめ」を許さない校風をつくる。
- ・日々の教育活動を通して、偏見、差別、いじめの芽を見逃さない。
- ・「いじめ対策委員会」を迅速に運営する。
- ・生命のかけがえのなさを理解し、大切にできるよう指導する。
- ・「道徳授業地区公開講座」を計画し、家庭や地域との共通理解、連携を図る。
- ・「郷土府中に根ざした道徳資料」を活用した授業を行う。

〈成果〉・人権作文コンクールに3年生以上が参加し、人権について深く考えられるようになってきた。

〈課題〉保護者アンケート「学校は、いじめなどの未然防止、早期発見、対応に取り組んでいる」で「わからない」との回答が昨年度より4ポイント下がったが依然24%にも上っている。いじめの当該児童やその保護者でなくても、学校の取組が伝わるように今後も努力していく。

⑤キャリア教育の充実

- ・低学年：小学校生活への適応と自分の役割を果たそうとする
 - ・中学年：友達と協力して活動する中で、自分の持ち味を発揮し役割を自覚する
 - ・高学年：社会と自己の関りから、夢や希望を膨らませる
- 以上のことを踏まえて教育活動を計画していく。特に高学年では、地域の方や外部講師を招いてのキャリア教育を行っていく。

〈成果〉6年生では年間を通して「マイ グッドライフ」というキャリア教育を行った。外部講師や地域の方をお招きし、「生きる」について考える時間を取った。それぞれが自分の生き方を考えるよい機会になった。また、地域の方と学校も深くつながることができた。次年度も継続していく。

〈課題〉講師確保のため、地域コーディネーターの方のお力をお借りし、計画を充実させていく。

⑥保護者や地域と連携した教育活動の推進

- ・ホームページの充実
- ・学校だより・保健だより・学年だより・学級だより・専科だよりの発行
- ・地域行事への参加、「ふれあいコンサート」への参加等を推奨し、全教職員が地域理解を深める。

〈成果〉・保護者アンケート「学校は、教育の方針や学校の様子を家庭や地域に分かりやすく伝えている」では肯定的な意見が93%だった。また「地域に根差した学校づくりに取り組んでいる」でも肯定的な意見が94%と高かった。

- ・卒業生の保護者や卒業生が中心となって、放課後の学習室を開設した。次年度もこの学習室を充実させていく。

〈課題〉地域行事への参加の意義を教職員に伝えきれていない。次年度は今年度参加した教職員の話伝えることで前向きに参加できる雰囲気を醸成していく。

(2) 重点目標への取組と自己評価

①「つよく」

○自己肯定感をもち、意志決定力を育み、すすんで活動する。

【目標：自己評価 75%以上】

- ・児童のよいところ、頑張っているところを教室、職員室の話題にし、情報共有できる仕組みをつくり、学校中で共有する。
- ・「今日のがんばりさん」、「今日のMVP」など、あらゆる場面で真面目に努力した子供が認められるようにする。

〈成果〉児童アンケート「自分に自信があることや、がんばっていることがある」では肯定的評価が81%であった。職員室の雰囲気も大変よく、児童のよいところを情報共有し、多くの教職員で児童をほめていくようになった。

〈課題〉児童自ら自分たちの学校生活で行いたいと思える活動を創造できるように、委員会活動等の充実を図っていく。

②「たたく」

○基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、学力を向上させる。

- ・「学習スタンダード」「授業スタンダード」を徹底する。(チャイム着席)
- ・家庭学習の習慣を確立する。(学年×10分間)
- ・「ベーシックD」「eライブラリー」を活用し、反復学習をさせる。

【数値目標】東京ベーシックドリルの診断テスト等

○漢字：低・中学年90% 高学年80%の定着率

○算数：低学年85% 中学年80% 高学年80%の定着率

・学力向上委員会で常時活動を立案・計画し、児童の学力向上を図る。
○読書活動を推進し、創造性や豊かな心を育み、生涯にわたる学びの姿勢を培う。

【目標：1年生75冊以上、2年生100冊以上、達成率85%以上

3年生3000ページ以上4年生4000ページ以上 達成率85%以上

5年生4500ページ以上6年生5000ページ以上 達成率80%以上】

- ・全校一斉の朝読書、年3回の読書週間に取り組む。(「おすすめ本カード」の作成、掲示などを校内で図書の情報や読書の楽しさを共有できるようにし、読書の習慣を身に付けられるようにする。)
- ・発達に合わせた読書カードを活用し読書活動の振り返りができるようにする。
- ・担任、学校司書の読み聞かせをはじめ、「どんぐりさん(保護者有志)」の読み聞かせを通して読書に親しむ。
- ・読書の記録を丁寧に指導することを通して、目標を達成できた児童は全校朝会で紹介し、表彰状を送り、読書活動を推進する。
- ・「ビブリオバトル」の方法を共有し、チャレンジする。

○新聞を活用し「読む力」「考える力」「表現する力」を身に付けさせる。

【目標：新聞を活用できた児童85%以上】

- ・学校図書館横に学習室を整備し新聞を常時置き、だれでも読むことができるようにする。
- ・新聞を活用した授業の在り方を教員が学び、実践していく。
- ・「今月のニュース」を募集し3点(低・中・高)選び、全校朝会で発表する。

○詩の暗唱に取り組む【目標：全学年90%達成】

- ・一日一回音読する時間を確保し、暗唱に取り組む。
- ・全校朝会で暗唱する時間をとり、暗唱できた達成感を味わわせる。

○課題に対して自らの意見を持ち、それを表現する力を発揮する場をとして、2年生以上は

○ロータリー作文に参加する【目標：4年生以上は全員応募する】

- ・教員が作文の指導について学ぶ時間をとる。
- ・ロータリー作文で受賞した作文をホームページで紹介する。(児童名は伏せる)

〈成果〉・児童アンケート「新聞を活用する学習に取り組めた」では肯定的な回答が74%だった。一年間かけて取り組み、新聞活用が定着し、「読む力」「考える力」「表現する力」が付いてきた。

- ・教職員が作文指導についての研修を受けることで、児童の作文を書く力が確実に上がった。

〈課題〉教員研修で「低学年からできるビブリオバトル」を学んだので、次年度学習で生かしていく。

③「あたたかく」

○礼儀正しい挨拶が、すすんでできるようにする。

【目標：学校評価85%以上 自己評価90%以上】

- ・「あいさつ当番」を体験し、挨拶の大切さに気付くことができるようにする。
- ・代表委員会と連携して、「あいさつ名人」運動に取り組む。
- ・府中第七中学校の生徒、教員と連携して、合同の「あいさつ活動」を計画、実施する。

(毎朝校長が正門に立ち、登校する児童に笑顔で挨拶する。)

〈成果〉府中第七中学校との合同「あいさつ活動」等、小中連携を生かした取り組みを行うことが有効であった。また、全児童年に3回以上は校門でのあいさつ運動を行っており、挨拶をしっかりとできる児童に育っている。

〈課題〉年間を通して「あいさつ運動」を行い、校内ではとてもよく挨拶をする姿が見られたが、ご家庭ではその姿ではなく、保護者アンケート「お子さんは、あいさつができる」では肯定的な評価が71%だった。学校だけではなく、家庭生活においても挨拶ができる子に育てていきたい。